

高知中央・高幡・安芸医療圏 脳卒中地域連携パス使用マニュアル ①

※今回の変更点には☆印あり

【対象患者】 適応基準・除外基準

適応基準：新たな脳卒中急性期の患者（画像診断で責任病変が同定）

20 歳以上

除外基準：脳卒中で連携に適さない特殊のものは除く（若年者脳卒中や、もやもや病に伴うものなど）

重篤な合併症のため連携が困難症例

【パスの同意について】

- ・脳卒中連携パスの利用に関する個人情報の取り扱いについては急性期が行い、診療計画についての説明および同意は各ステージで行う。

【パスの種類】

パスは**基本情報シート**、**患者情報共有用紙（多職種紹介状）**と**時系列オーバービューパス**の 3 つから構成される

◇ 時系列パスは連携の種類により下記の 4 種類に分類される

- ①急性期—かかりつけ医
- ②急性期—回復期—かかりつけ医
- ③急性期—回復期—維持期
- ④急性期—維持期（長期療養型医療施設、施設）

◇ 基本情報シートは多施設で多職種により作成する

◇ 情報共有用紙は施設単位で多職種により作成する

- ・情報共有内容は可能な限り簡素化し必要情報に絞る

【パスの作成】

- ・基本情報シートは急性期で完成するものではなく、追記や修正を各ステージで行い最終的な状態を更新または記載した上で、最終更新日を更新する。
- ・情報共有用紙（急性期）の ADL 自立内容（BI）評価については、入院後 1 週間以内を目安に行うこと。
- ・パスの作成にあたっては多職種、多施設で共同作成する。

（多職種とは）職種は医師を中心に、看護師・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカー・医療連携室・ケアマネジャーなど医療連携に携わるすべての職種を指す。

（多施設とは）急性期医療機関・回復期医療機関・維持期医療機関・かかりつけ医・在宅医療支援施設および行政組織を指す。

- ・記入漏れがないように、記載がない場合は「なし」と記入する。

☆・各ステージシートは、ほぼ集計表にリンクしている。（リンクしていない欄は直接記載する）

【パスの送付方法】

- ・運用は、CD-R と紙媒体にて行う。但し、地域連携パス参加施設以外へは紙媒体のみで運用とする。
- ・回収されたデータはそれぞれの施設で管理する。
- ・連携パスを印刷する際には提供される側が見やすいレイアウトに調整し印刷を行うこととする。

☆【パスの対象期間】

- ・原則、急性期発症から1年間で終了とする。
- ・連携先が不明になった場合は、集計表に追跡不能の内容等を記入の上、該当急性期病院の脳卒中連携パス担当者に送付する。

☆【パス発症1年後の運用】

- ・可能な限りデジタル情報で医療者から医療者へと移動し、最終的に発症1年後に集計表または、情報共有用紙を記入し、該当急性期病院の連携パス担当者に郵送にて送付の上、終了とする。急性期病院は用紙の回収・保管を行う。
- ・発症1年後に再発予防・二次予防チェック目的として急性期病院から脳卒中連携パス対象患者へ手紙を送るなどする。また可能な限りデータを回収する。

【パスの逸脱】

- ・連携パスの継続が次の理由により困難になった場合、連携パスの運用は**逸脱**とし、集計表に必要事項を記入の上、該当急性期病院の脳卒中連携パス担当者に送付し逸脱の内容等情報を共有する。
 - ① 患者・家族から登録解除の申し出があった場合。
 - ② 患者が死亡した場合。
 - ③ 急性期病院で外来を継続する場合。

【パスの終了】

- ・連携パスの継続が次の理由により困難になった場合、連携パスの運用は**終了**とし、集計表に必要事項を記入の上、各急性期病院の脳卒中連携パス担当者に送付し終了の内容等情報を共有する。
 - ①脳卒中再発の場合は、その時点でパスを終了とし、新たなパスを立ち上げる。
 - ②他疾患発症に伴う患者の転院は、転院時でパスを終了とする。但し、短期入院で元の施設へ帰る場合パスは継続とする。

【パスのデータ】

- ・パスのデータは共有のものであり、また個人情報が含まれていることから個別に利用はしない。
- ・脳卒中データバンクを作成する場合、パスのデータを転用可能とする。
- ・合同会合で年次報告を行い、連携パスの集計データを公表する。
- ・事務局が保有する集計データ等の流用については、事務局に使用理由等を申し出て許可を得る。

【主治医の押印】

- ・情報共有用紙は主治医欄へ押印をする。

高知中央・高幡・安芸医療圏 脳卒中地域連携パス使用マニュアル②

*** 入院～退院・転院および1年後運用について ***

☆ ※退院・転院時・かかりつけ医初診時の～紹介先へのお渡しセット～

☆ 【急性期病院】【回復期病院】【維持期病院】 共通

※かかりつけ医へ連携の際には、可能な限り患者の受診を事前予約し、お渡しセットを郵送しておく。

■ 転院・病院・有床診療所・施設へ紹介

	内容	媒体
連携パス参加施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本情報シート ・ 集計表 ・ 記載済み情報共有紙（各ステージ毎） ・ オーバービュー（医療者用・患者用） 	連携パス CD + 用紙 ※画像 CD は別
連携パス 不参加施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本情報シート ・ 集計表 ・ 記載済み情報共有紙（各ステージ毎） ・ オーバービュー（医療者用・患者用） ・ 脳卒中連携パス運用についてのお願い 	用紙のみ (CD 不要)

☆ 不参加施設への白紙情報共有用紙は不要

■ 退院・外来へ紹介

	内容	媒体
連携パス参加施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本情報シート ・ 集計表 ・ 記載済み情報共有用紙（各ステージ毎） ・ オーバービュー（医療者用・患者用） ・ かかりつけ医白紙情報共有用紙（初診時・発症後1年用紙） 	連携パス CD + 用紙 ※画像 CD は別
連携パス 不参加施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本情報シート ・ 集計表 ・ 記載済み情報共有用紙（各ステージ毎） ・ オーバービュー(医療者用・患者用) ・ かかりつけ医白紙情報共有用紙（発症後1年用紙のみ） ・ 脳卒中連携パス運用についてのお願い 	用紙のみ (CD 不要)

☆※ステージ別 退院・転院時の運用

*報告の際は**基本情報シート**・集計表・情報共有用紙を返信する。

【回復期病院】

●急性期病院へ退院・転院報告として、基本情報シート・集計表・情報共有用紙を返信する。
(用紙のみ)

【維持期病院】

●自宅へ退院・他院へ転院する際は前方病院(急性期・回復期)へ、基本情報シート・集計表・維持期情報共有用紙を返信する。(用紙のみ)

【かかりつけ医（初診時）】

●紹介元退院月の翌月末までに急性期病院へ、かかりつけ医初診時用紙を作成・返信する。
(用紙のみ)

※発症 1 年後の運用

○入院中・・・ 集計表を作成、合併症の有無・その他特記事項を記載のうえ該当急性期病院へ返信。

○退 院・・・ *かかりつけ医：かかりつけ医発症 1 年後用紙もしくは集計表を該当急性期病院へ返信。

*急性期病院：発症 1 年後フォローに向け案内などを送付。

★パスの返信方法は、郵送で返信（FAX は不可）。（住所は参加施設一覧参照）